

大刀洗町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事録

日 時：令和 7 年 3 月 24 日（火） 10 時 00 分～12 時 00 分

会 場：役場 3 階 大会議室

～ 次 第 ～

1. 企画財政課長 挨拶
2. 議題
3. その他

■人口ビジョンの改定について

事務局

本日配布した資料 1 を用いて大刀洗町人口ビジョンの改訂についてご説明いたします。今回の改訂は、毎年行っている最新値への更新、第 2 回でご説明した目標人口の改定が主な内容となっております。

～資料 1 に沿って説明～

人口ビジョンの 35、36 ページに改訂内容を掲載しております。人口ビジョンの改定についての説明は以上です。

会 長

いくつか変更事項があったということですが、何かコメントやご質問がある方はいらっしゃいますでしょうか。今年は久しぶりに社会増減の人口動態がマイナスになっていて、転入が 100 人くらい減っている。後の資料を見ると新築の住宅の件数が増えて空き家も増えているということでその辺のバランスをどのように見ていくかということと出生率が国レベルに戻ってしまっているというのがありますがそのような原因も含めて個人的には説明をお伺いしました。

特になければ、続いて協議事項 2 に移りたいと思います。第 2 期大刀洗町まち・ひと・しごと創生総合戦略（大刀洗よかまち創生プロジェクト）の進捗状況について資料 2 について、事務局からよろしくお願いします。

■第 2 期大刀洗町まち・ひと・しごと創生総合戦略について

事務局

それでは資料 2 を用いてご報告いたします。第 2 期大刀洗よかまち創生プロジェクトの進捗状況については毎年 1 回このような資料を用いて、KPI の達成状況やその事業がど

のように進んでいるかというのを審議員の皆様にご報告しているものです。この第2期については今年度最後の年となっております、この1年間の取り組みの状況そしてKPIの状況をご報告するものになっております。今回5つの柱がありまして、移住定住の部分、子ども子育ての部分、しごとの部分、まちづくりの部分、魅力発信の部分、この第3期に続いていく5つの分野に分かれておりますが、まずは移住定住からしごとの分野の状況をご報告いたします。

～資料2①②③に沿って説明～

委員

2点お尋ねしたいと思います。まず定住促進住宅整備事業スカイラークの1棟目が10年経ちました。これはPFI事業だったかなと記憶しておりますが、新たな計画とかは、4棟目というのはいかがかなと思いながらお尋ねしたい。2点目、創業支援事業について、町の方では3年に1回の開催が課題だというふうに認識されております。昨年、筑後信用金庫と大刀洗町は連携協定を結んでおります。その中でもし可能であれば筑後信用金庫、商工会議所、あと信用組合さんも大刀洗町で毎年開催されるような創業支援塾などを計画されたいかがかなと思いますので、協議会などを立ち上げていただいたら十分お手伝いできるというような施策があるのではないかと思います。

事務局

1点目のスカイラークの4棟目の計画があるかどうかというご質問にお答えいたします。地元からの要望はあるのですが、人件費と物価高騰の影響もあり、価格が1棟目を作った時よりも3割くらい経費がかかると事業者さんから言われていて、それでも同じ間取りでもし建てるのであれば、今の家賃と同等で設定しないといけないという部分もあり、検討中ではありますが、今の時点では具体的な計画はない状況です。

委員

1棟目の時に事前説明会をされたと思いますが、多分4棟目や次の計画が持ち上がった時にはまた説明会などあると思いますのでぜひお願いしたいです。実際、大刀洗町が何年間か人口が増えたのは、このスカイラーク事業が肝でしたよというような認識を金融機関を含めて持っております。そういう部分ではいい成功事例ではないかと思っておりますので、また計画がある際はぜひお願いします。

事務局

計画する際は情報提供します。

会 長

2 番目の質問についてお願いします。

事務局

すみません、私が今どういう仕組みになっているかがよく理解できていないのですが、商工会さんと連携しているというところで、商工会選出の委員よりにご意見、状況共有等いただければと思います。

委 員

小郡と久留米と大刀洗の 3 商工会で創業セミナーを年 1 回しています。それでたまたま去年大刀洗からの参加者が変わりましたが、それまで毎年 2, 3 名くらいの参加しかなかった。他の地区の方の参加があって、大刀洗の参加者が少ないということで、毎年大刀洗で開催するのは難しいというのがあります。講師の都合もありますし。やはり 10 名くらいの参加者がいないと。

委 員

そういうところも含めて協議会など作られたらいいのかなあとは思いますが、他の市町村で実際当行が受託している部分もありますけれども、定員 10 名であとは実際お金がかかるのでお金をどうするかという問題があるので、できれば町と金融関係、商工会と絡めれば色々な部分で負担が減るのではと思います。

事務局

ありがとうございます。創業支援を持っている地域振興課と今の状況も含め共有していきけるような体制が作れていくと、より町内の企業等が盛んになるのではないかと思いますので、委員よりいただいたご意見は地域振興課と共有していきたいと思います。

委 員

先ほどの創業支援事業の件ですが、3 商工会連携で開催のセミナーについて詳しく教えてください。1 日話を聞いただけなのか、例えばワーキンググループのようなものを作って何か月か活動するようなものなのか。

委 員

数年前までは 3 日間くらいですね。土曜日や午後 3, 4 時間くらい。30 時間くらい来ていたのですが、なかなかそれだけの時間が取れる方が少ないということですね。最近では少し日数を減らして平日の夕方から 2 時間半くらいを 4 日間くらいでしているような状況です。以前は長い時間取れる時はワーキンググループなど作って事業計画書をグ

ループで作って、最終的には個人的な事業計画書も作っていた。でも最近は、短くなりましたので座学的なことが多くなってきた。

委員

それぞれの市町村で色々なやり方があると思いますが、その元になるのが、地域振興課が作った創業支援計画というのがあると思います。その創業支援計画に基づいて協力しますという機関に商工会が入っていますし、そこに金融機関を入れると支援計画できちんと資金をこなしたら創業支援事業として認められる。そこに本来補助金交付がある。単純に1時間のセミナーで補助金は使わないとか、ただ計画に則った創業支援事業であれば市町村が補助金出すというようなスキームかと思っておりますので、その辺は地域振興課と我々が話せばいいことであって、きっかけを作っていただいた方が色々な話ができるのではないかと思います。

委員

スカイラーク菊池が1つ転入増の要因かと思いますが、今現状から見ると転入が減った要因ですが、要因として需要はあるけど地域の宅地が追いついていないのか、空き家は増えてきているけど登録が進まず、なおかつ空き家に住みたいと思っている人がいるのかどうか。なかなか分析は難しいとは思いますが、今の時点で考えられることがあったらお願いします。

事務局

はい。町の北部の菊池校区を中心に住宅の開発、民間の開発が進んできたと思っておりますが、ただ本町自体の面積は大きい町ではないので民間による開発には限界があるのかなと思います。今回の転入減がそこと結び付けられるかというところまで十分な分析というところまではできていない状況です。

委員

おそらく出生率が下がったのも転入減と、元々は若い方々が入ってきて出生されるということがあると思いますが、そこをリンクしていると考えると逆に人口ビジョンの合計特殊出生率が2だとかなりハードルが高い目標になるのかなと改めて思いました。

事務局

転入減につきましては前回お示した人口ビジョンの改訂の時にどういう世代が転入してきたかというグラフがあり30代、40代の子育て世代の人口が増えております。その方々がお子さんと一緒に転入されてきたかは確定できていないのですが、新たに大刀洗町で出生が多くなされてこれまでの高い水準の出生率にも繋がってきたのではない

いかと推定はできます。その動きがこれから増加していくと出生率の維持もなかなか厳しいものになるのかと思いますのが、まず出生率、そして出生、転入がどのように関連しているか、現状と施策がどうマッチしているかをしっかり見ていく必要があると思います。

委 員

自治体でもこういう同じようなことがあっていて、なぜこの数字が出ているのかは繋がっているのではと全体の繋がりをみたいなのが見えてくるといいのかなと思います。

委 員

目標値というのは毎年のものなのか、第何期ごとのものですか？5か年計画という見通しで、1年で改善できないものは多くあると思う。1年目はここまで達成する、2年目はここまで達成して5年間でゴールを目指すという目標値なのか毎年の目標値でしょうか？

事務局

委員からご指摘のところではいいですと後者になりまして、その5か年でその数値を目指していくという目標値となっております。

委 員

第2期の審議会の資料を見直した際にあった意見で、第2期を見直すにあたって例えば現状の数値をどうこの後伸ばしていくのかというところの見通しを立てないとKPIの設定が漠然としたものになるのではないかと、というのがあった。もうすでにその数値になっているから目標達成していますということで、改善は必要ではないのか。この移住相談事業のところにコメントされていたのですが、移住者は比較的多いにもかかわらず数値が反映されていない、そこをどうお考えになりますかというコメントだった。

移住者自体が増えているのに実際相談されている数は右上がりにはなっていなかったりしてあまりリンクしていない。その時のコメントがあまり皆さんのKPIの設定に反映されていないようにお見受けした。この数値が今一体どこを見据えての数値なのか。移住定住応援BOOK事業はいきなり1000になっているが、10倍に増やすという根拠は何か。例えばこれくらい増やせば何の効果を見通してあるのか。

事務局

これは第2期の1000という数値の根拠ということになりますか。

委員

はい、いきなり桁が変わるくらいの目標値にされているので、これくらい配れば、例えば今まで 150 だったら移住者が 1 だとかでも 10 に増やしたいので 10 倍配布すれば 10 倍になるのかなと思って。一桁増やしましたとか何か根拠があればわかりますが、少なくともそういう媒体を発行するにあたってそれなりの経費がかかると思うので。町の予算からすれば微々たるものかもしれないが、私は町民なので税金がどこに使われるのか、仮に国から交付金として入っていたとしてもそれも税金だったりするので、漠然と数だけ増やせばいいよというやり方だとなのかな。逆に何か根拠があってどれくらいの数を増やそうと思っていますというのがあれば教えてください。

事務局

ありがとうございます。この目標値というところがかなりご指摘の通り実際の数値と目標値が乖離していると思っておりまして、当初どのような意図があって 1000 という数値なのかというのがありますが、2020 年についてはコロナ禍もあり、当初の計画とコロナ禍のオンラインイベントや移住定住のイベントもほとんどない中で乖離が出てきているのを修正しないまま来ているのではないかと考えております。これから第 3 期に状況の変化や現状に見合っていないところは審議会の中で状況報告をしていきますので現状とすり合わせて適切な KPI なのか見直していければと思います。今回のこの数値に対する答えは持ち合わせていないのですが今後そのように対応できればと思います。

委員

逆に回転率みたいなものはどうなのでしょう。もちろん出入りが頻繁で、結局一旦大刀洗町に入っただけでも、そのまますぐ数年後には転出してしまいたい状態を見て、子育て時期が終わったら出ていくみたいなこともありましたので、それよりはいいのかなと思うのですが、民間と違って更新という形式がないですね。

事務局

更新はしています。

委員

何年更新ですか。

事務局

確認します。(別紙 1 参照)

委員

更新料は発生しますか。

事務局

発生しないです。

委員

そうすると一定の方がずっとそのまま、ある意味定住という形になるのですが、多分昨年度だったと思うのですが、問い合わせがあるが空きがないと。そうすると来たいと思っている人が入れないという状況になって、その方々が例えば民間のアパートや戸建てを建ててくだされば、移住に繋がるかもしれないが、チャンスを逃している可能性もあるという意味では安易に良いこととして分析するのもどうなのか。

菊池は10年経っているので色々な設備投資がかかるのも町から出して町から出してということになりますよね。

事務局

スカイラークについては家賃が発生しておりまして、その家賃で最終的に30年を賄う形で計算しております。国の補助金や家賃収入で最終的には町の手出しがないような設計はしています。ただ、入居率が9割を維持しないと手出しが出ますので目標値として9割と設定しております。

委員

2つ目標値があるようなものでしょうか。例えば入居率が9割をということと、別の意味では移住定住してもらうという2つの側面がある施策であるというところで、空いてないから来られないけれども、そこはもう入っていただいて定住できればいいかなということでしょうか。

事務局

入居率は一定で99%で推移しているのですがその内訳を見ると、スカイラーク菊池でも退去の方は令和6年度で私が7月に担当してから2件くらいで、すぐ次が決まってというような流れはできております。スカイラーク上高橋は2件くらい入居がない状態で空きがあった状態ですが最近解消している状況です。委員が言われるように、大堰駅前も令和6年度中ずっと満室状態なので入居希望者の機会損失は当然発生していると思います。スカイラークに入ってその方が町を気に入り、新築住宅を建てるとして町内に転居する流れができればとは思いますが、それぞれの生活スタイルもありますので難しいところがあるようにも感じています。

会 長

入られた方がある一定の期間町内スカイラークなどに住んでくださっているのは快適だからでしょう。

かといって増設すればいいのかというのもあるので、住んでくださることはいいことですがどこまでどうやるかというところですね、またルールを変えとなると今度はお住まいの方のこともありますのでなかなか難しいところだと思いますけれども大事な施策だと思います。

委 員

創業・新事業展開支援補助金交付事業について、随分前に商工会さんにお話を聞きに行ったことがあります、多分こういう事業が始まったということも意外と皆さんご存じないままになっている可能性もあるのでは。

委 員

昔は区長さんからの全戸配布などしていただいていたが、最近は区長さんの配布を減らしていく方向になっていますので、その対応として広報誌の掲載や新聞折り込みで対応しています。

委 員

ちなみにこれは枠としては何なのか。

委 員

3 商工会で実施していますので、定員 20 名でしています。

委 員

費用は交付金ですか。

委 員

県の補助金を使っています。

委 員

何名になったら終わりとかよくあると思いますが。

事務局

目標値としては 2 件としておりますが、多く来た場合に補正があるのかは確認が取れていない状況です。

委員

今、町の補助金で、かててなど色々されている方もたくさんいると思いますが、なかなか事業として始めようと思うには資金面的にハードルが高くてという方も水面下にはたくさんいるのかなと思いますので周知の方法などを今後もよく検討していただきたいと思います。

会長

今回実績的に農業従事者の方が減っているということもあり政策的にそういった話を取り入れて議論できればよかったのですが、どうしても数値あつてのことですので、そのあたりも大刀洗町の重要な産業ですので、またいずれ議論ができればと思います。では、後半の④番からお願いします。

～資料 2④⑤に沿って説明～

委員

同窓会推進事業はコロナ禍の関係で 0 件があるのですか。

事務局

はい。

会長

よろしいでしょうか。

続いて協議事項 3 に移りたいと思います。第 3 期大刀洗町まち・ひと・しごと創生総合戦略（大刀洗よかまち創生プロジェクト）、資料 3・4・5 についてお願いします。

■第 3 期大刀洗町まち・ひと・しごと創生総合戦略について

事務局

それでは大刀洗町よかまち創生プロジェクトについてご説明いたします。第 3 期の冊子の案を資料 5 としております。こちらを中心にご説明をしていきたいと思います。この表紙のご紹介ですが、元地域おこし協力隊でデザイナーとして独立された加藤さんに作成していただいた表紙となっております。審議委員の皆様のご意見等を踏まえて、3 月

末をもって第3期のよかまち創生プロジェクトを策定予定としております。
内容についてですが、5本の柱は変わっておりませんで、第2回は同じような案を示しております、そこの主な変更点と、この審議会とは別に、第3期策定にあたり町民の皆さんや移住者の方にこの5つの大きな分野ごとにワーキンググループを作って3回それぞれ集まって検討会をし、色々なご意見、アイデアをいただきながら作ったものになっております。

～資料3・4・5に沿って説明～

会 長

ありがとうございます。資料5をメインで資料3では主な変更点、資料4がパブリックコメントの結果ということでお1人から4つのご意見をいただきまして、それを踏まえて資料が改訂されているという報告でした。一通り目を通されている方もいらっしゃるかと思いますが何かご質問やコメントなどありませんか。
ワーケーションの30人は延べカウントですか。

事務局

実人数です。

会 長

そういう施設の整備みたいなのはどうですか。

事務局

ワーケーションはすごく分かりづらいのですが、来年度どういう事業を実施するのかを簡単にご説明いたします。2泊3日で町に大企業の方を中心に5.6人から多くて10人くらいに来ていただいて町の色々な現場を見ていただき2泊3日終えた後、町の課題について解決案を提案してもらうものです。参加者としては5.6人から10人くらいですが、企業に戻られて町の活動報告やPRをしていただいて実際大使になっていただけたらという部分で、6人参加して参加者以外にも5人大使になってもらえれば計30人になるというところでKPIを30人に設定しています。

会 長

泊まる場所などが課題になってくると思いますが。

事務局

泊まる場所は、町内で空き家を研究している職員がいて、公には貸していないけど知っている人には貸すような所があるので、そういうところに泊まっていただくよう考えております。

会 長

ワーケーションというよりも、課題解決のワークショップをやりに来るというかんじですね。

事務局

そうですね。事業名としては課題解決型ワーケーションとしております。

会 長

そうなるとこの課題を解決することでそれが町の将来にどう結び付くかというのは、リアリティがあるものでないとオファーしづらいですね。

事務局

ワーキングの中でこの事業案が出たのですが、提案した方が課題解決型ワーケーションの経験者であり、これまで構築してきたネットワークに対して声をかけてもらう予定のため一定数は来ていただけていると思っています。

会 長

この辺だとコワーキングスペースみたいなところはニーズがありそうですね。

事務局

菊池校区にある就業改善センターのセンター長がそういうことに前向きで、センターをコワーキング化したいという話は聞いているので、そういうところとも連携していきたいと考えています。

会 長

交流人口を増やすというのはどこの地域も大きな課題となっているところだと思います。

委 員

現在の地域おこし協力隊さんの状況と、地域おこし協力隊として来られて定住された方などの状況がわかればお聞きしたい。本当はその人達を何か創業するように仕向け

ないといけないなと思いながら、創業支援事業にも関連してくるのですが、必ずその人達は創業塾に参加して、そしてできればその中から何人でも地元で創業すれば効果的ではないかと思います。

事務局

現在、大学院から地域おこし研究員の方が来られていて町内の企業を対象に地域づくりに参加していただくよう繋がりを作っていただいています。起業自体はご自身でされている方です。学び直したいということで、慶応の大学院に入って大刀洗町に来られました。

また、ルリー口福岡というラグビーチームに所属している久田選手が福祉課で健康体操などをしていただいています。過去にはデザイナーの中津さんは実際に起業されました。ハワイから来て現在のかてて、元さくら市場を盛り上げていただいた方もいますし、写真を撮って情報発信やデザインをすごく頑張っていた方もいますし、すごく多様なものになっています。定着としては中津デザインさんが実際町外から来られて定着されています。あとは、町で学んだことを他の地域で生かしたりと多様になっています。

会 長

本来、地域おこし協力隊というのは派遣されて定住し起業するというのが目的だったので、今色々な使われ方をされているのでなかなか難しい。ふるさと納税もそうですが意味が拡大解釈されている感じはありますよね。本来は町の経済活動を支援するもの。

事務局

使い方をきっちり起業までサポートして創業支援制度を活用していくという流れはいいと思います。

会 長

協力隊の方も色々な方がいらっしゃって面白い。他いかがでしょうか。

委 員

これから高齢者の方が増えると一人暮らしの方も増える見通しもありますが、その中でも生活の足を確保するためにのりあい定額タクシー事業をされていると思います。年々増えてきて目標達成しましたとあります。一方で新しい目標もまた同じ目標になっているのですが、これはどのような考えからなのか。

事務局

ありがとうございます。のりあい定額タクシーの KPI の決定につきましては、総合戦略の計画とは別に地域公共交通の計画というのがございます。そちらの計画の数値と合わせて今の数値を設定しているので達成はしているのですが今は据え置いている状況となります。そちらが令和 8 年度までの目標なのですが、その 20 人と合わせているという回答になります。

また公共交通の計画も新たに改訂することになるかと思いますのでその改訂状況を踏まえて総合戦略の KPI の見直しもすることになるかと思います。

委員

現状維持の目標設定をするというのは予算上のギャップで拡大しにくくなることはないですか。

事務局

ないかと思います。

会長

のりあい定額タクシーについては町内に事業者さんがないので周辺の事業者さんにひばり号の運営を委託している状況ですが、先般 1 社ひばり号の事業からは引かれることになりました。需要はすごく高まっているのですが供給側の問題が発生していると認識しています。

事務局

これからは供給側も課題があるのではないかと思います。

会長

やはり町内に空で入らなければならない時間が長くなるというのが一番大きな問題で、そこを従来のバスなどがカバーされていたのですがそれもなくなった。一番早いのは町でタクシーを運営することですがそれも資源の問題がある。

委員

移住定住のお話をしたときになぜ転入が増えているのか、外国人の方が増えているのか尋ねるとわかりませんと言われる。移住相談などの時になぜ転入するのか、なぜ大刀洗町を選んでくれたのかというようなアンケートなどないのでしょうか。そういうのがあるとどこに魅力を感じてこの町に住んでいただけるのかがわかると思いますが、何か制約があってできないのかそういうのをやっている聞いたことがない。

事務局

アンケートは、例えば転入や転出の手続きの時など誰にどう聞くかを整理することでできると思います。住民課の窓口での手続きは書類や説明が多く難しい部分もあったと思うのですが、今後窓口業務が簡略化される部分もあるのでうまく工夫してできるとこちらの施策に反映しやすいと思いますのでぜひ検討していきたいと思います。貴重なご意見ありがとうございます。

会 長

ネットもありますよね。

委 員

多分紙だと長続きしなくて、今までにやってもやめている市町村もあります。

事務局

負担がないように隙間時間などにしやすいなど方向性は検討したいと思います。

会 長

町のマーケティング施策としてはとても大事なことだと思います。

委 員

1年前にもお伝えしたと思うのですが、KPIの設定の仕方で、アウトプットとアウトカムが、本来だったらアウトカムのところをアウトプットで設定されていることが多いですね。ということは町の職員さんなどやる人の目標値にしてあって、本来これは住民や町に対してこういう効果をもたらす為の施策ですというふうにされているはず。やはりアウトカムにしないといけないところが、今回もあまり反映されていない理由はやはりアンケートが取れていない、住民の声を聞いて満足度を拾うことが必要。この施策に効果があったのかは実数ではなくサービスを受けた人たちが本当に効果的だと意味があったというものに繋がると思います。アンケートを取るのは前回も難しいと言われていたのは理解しているのですが、ほかの自治体ではやはりきちんとアンケートを取られている。職員数や規模も全然違うというのはあると思いますが、きちんとアセスメントして効果があったかなかったかをフィードバックさせないとPDCAサイクルに則らないやり方になってしまうのではないかと思います。やり方は先ほどのご提案などを少しずつ導入していただく方向でお願いします。少し厳しい意見になって申し訳ないのですが。

先ほどの地域おこし協力隊のお話で、他の自治体では住民側に必要としているところを出してもらうよう募集をかけているところがある。自分たちもこういうところに地

域おこし協力隊をほしい、農業の方で担い手がいらないからやりたい人を引っ張ってきてという感じでそのまま入ってもらって住民と密に繋がる。あるいは商店街がさびれてきて商店街の会長がデザインなどできる人いないかということにリンクして募集をかけている自治体もあったりします。今後も続けられると思いますが方向性もまた色々検討されてもいいのかなと、そうするとそのまま残ろうかなという方が増え、農業を続ける方、起業される方も出てくるのではないかと思います。

パブリックコメントを取られていて数は少ないのですがいい取り組みだと思います。なかなか上がってこない住民の声なので貴重なご意見だなと思います。

施策全体的に見ていて、移住してくる方は若い方たちがすごく多い。住み続けたいです、すぐ住みたいですというようなこれからの視点はたくさんあるが、今まで住んでいた人たちがこのまま住んでいてよかったというものがなかなか見えてこない。色々な施策をされていてここに入っていないだけかもしれませんが、年少人口は移住者が増えて若い層の方が入れれば増えるのですが、生産年齢、義務教育終わって高校卒業してから出るというのが大刀洗町の特色であるのはあいかわらず続いていて、増やそうといっても限界がある。だったらいかに減らさなか、結果として戻ってきてくれるという方にもしておかないと。

また、KPI がざっくりしすぎている。かてての事業については KPI は事業参加者数で外国人の方とか障がい者の方とかというふうに一括りにされているのですが、参加されている方たちの割合はもう少し相対をきちんと出していただいた方がいいのでは。実数は上がったとしても障がい者の方がやっぱりなかなか参加しづらいとか外国人の方には声がかかっていなくて参加していないということであれば、皆が住みやすい町にはなっていないのではないかと捉えられなくもないかなと思います。その辺も踏まえて再度 KPI 等考えていただければと思います。

事務局

ありがとうございます。KPI について、アウトプットではなくアウトカムを設定をして、そのアウトカムをどこで測るかというアンケートをしっかりとやっていくというところで、先ほども意見交換いただいて、より取りやすい環境、デジタルの活用というのは進んできているかと思いますので、できるところから広げていきたいと思います。また転出抑制をしていくことで生産年齢人口がこれからの推計でも減るということは見込まれているのですが、定住していただく施策というところは目玉のような施策はこの中には盛り込めていないなとは思っております。ただ今後のアンケートや町民の方がどのような理由があって転出、転入されるのかという分析を踏まえて、施策をないものを新たに作るのかということもありますが、今ある既存の施策をどう展開していくのかということも第 3 期の課題になると思っております。

また KPI について結局どういう方が参加しているのかという実態的な把握というところ

ろになると思います。そちらについては担当課では把握しているところだとは思いますが今後はしっかりとお示しできるような様式や形態を検討していきたいと思います。

会 長

アウトカムで分かるといっても、まずそもそもどういう状態であれば町の施策がうまくいっているかということは何で測るかという話で、その尺度をまず決めるというのは非常に難しいと思いますし、声を聞けば全部反映されているのか、その声が全部正しいのかとなるわけで、一番いいのは人が離れないことだと思います。ただそのために KPI がフィットした目標なのかというところが今のご意見のポイントだと。それはアウトカムかどうかという話はあると思いますが、日頃はオペレーションレベルで実務を積み重ねられている方が 5 年先の目標を設定しなさいと言われるとやはりその実務ベースの数値になっていくかと思いますが、逆にその数値が果たして町民の皆さんの生活をより良くしていくものなのかということについては今一度こういう審議会の中で確認をしていって議論ができるのではと思います。非常に良いご指摘だと思う一方で、これは永遠に解決しない管理会計の研究でもあります。仕組みを作ることはできるのですが、それをオペレーションの中で回すとなった時に、現場レベルと町長はじめ執行部レベルが何を見ているのかというのがあると思いますので、我々のようなプロジェクトチームがしっかり計画を確認することが大事だと思います。非常に貴重なご意見をありがとうございます。予定の時間を少しオーバーしましたが、その分皆さんの色々なご意見いただくことができました。

3 番目その他の事項です。何かコメントや連絡事項などがなければ事務局に進行をお返しします。

事務局

ありがとうございました。事務局からのお知らせは特段ないのですが委員の皆様から何かお知らせなどございませんか。今年度は第 3 期の立ち上がり、よかまち創生プロジェクトの策定に伴い書面開催を含め 3 回開催させていただきました。お忙しい中、様々な視点からのご意見をいただきありがとうございました。それではこれもちまして、第 3 回大刀洗町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を閉会いたします。